

生物圏機能学分野

鈴木牧 准教授: http://lbf.nenv.k.u-tokyo.ac.jp/contents/Maki_lab/index.html

こんな問題に取り組んでいます

人間の社会構造の変化に起因する、直接的・間接的な生態系の変化を調べています。特に、二次林の遷移とニホンジカの過密化による森林生態系全体(植生, 土壌, 昆虫等)への影響について、観測や実験を行っていくわしく調べています。

こんなことがわかってきました

シカやイノシシの急速な増加は、房総でも自然植生の急激な衰退を招き、土壌の状態などにも影響を及ぼしています。しかし、これは動物側だけの問題ではないかもしれません。かつての明るい里山(二次林)が暗い森へ遷移していく中で、植生自体の被食耐性が低下している可能性があります。房総南部での5年に及ぶ大規模な野外実験から、この可能性を支持する結果が得られつつあります。

研究の成果はこんな分野に活かされます

時々「どうすればシカに畑を食われないで済みますか。」といった切実なご質問を頂くのですが、そういう逼迫した状況に際し我々は皆目役にたちません。そのかわり、数十～百年オーダーでの人と野生動植物の関係や、人間社会の在り方などについて考えるヒントを、世の中に提供していきます。

連絡先: 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻
鈴木牧 <suzukima@k.u-tokyo.ac.jp>



↑(左)シカの影響で下層植生が消えた林も、木を伐採すると5年でこの状態に。シカの入れない柵の中は明るい林に戻りつつあるが、柵の外は草と低木だけでサバンナのように(右)伐採せずに柵を建てシカを追い出しても植物は生えてこない=シカだけの問題では無さそう



↑土壌動物(左)と植食性昆虫(右)を捕える装置
「ホームセンターから世界水準の研究を！」

←発芽試験。暗い林の土の中には多数の種子が眠っており、明るくなると一気に発芽する